



# 文化都市・阿蘇市に



阿蘇市教育長 日吉 純夫

本年五月十日に教育長を拝命いたしました日吉です。よろしくお願ひ申し上げます。

多くの皆様方の大変なご尽力で新しく誕生した阿蘇市の、教育委員会の事務局長の責任者として、生涯学習の振興・充実を考えるとき、市民の皆様との創造が図られるように勤めなければならぬと思っております。

そのために、三町村でそれぞれの先輩方が営々と積み上げてこられた文化活動を受け継ぎ、発展させていかなければなりません。幸い、合併が行われて新しい市が誕生してすぐ阿蘇市文化協会が発足いたしましたことは、大変喜ばしく力強いことでもあります。

文化活動に造詣が深い市民の皆様が、長い間積み上げてこられた「教室」「講座」でそれぞれ技術を高め、こられたものについては、是非文化協会に所属していただき継承をしますます技術を高めていきたいと思います。そのことが、阿蘇市が文化の薫りを高めていくことになるから

です。また、生涯学習課としては、生涯学習「講座」で、初心者を中心にして三年間それぞれの分野の講座に親

## 第2回

阿蘇市文化協会 広報委員会

しんでいただき、継承したい人は、自主講座に加入し、その分野に優れた人となつていければと考えています。

外国で生活してみても、日本人である証は、日本の文化にどれだけ通じているかということだと思います。日本文化について知っていることで、「日本人」と認めてもらえるのです。特に外国人は、日本の伝統文化に興味・関心があり、どんどん聞いて理解しようとしています。自分でも何かと日本の文化と言えらるものを言葉以外に少しでもできたなら、もっとその国の人と交流ができたほうがと思います。

十一月二十三日（勤労感謝の日）に、阿蘇体育館で「阿蘇市こども芸術祭」を開催する準備を進めていきます。「文化都市・阿蘇市」になるために子どもたちの意識も高めていきます。



## 「伝承」

阿蘇市文化協会

会長 岩 永 浩

国指定民俗無形文化財の阿蘇神社農耕祭事の中阿蘇神社御田歌保存会が団体入会されました。この御田歌は国内で阿蘇だけのものであり、御田歌祭神輿の道中で古代から唄い継がれた貴重なものであります。代々唄われてきました人々も高齢者が多くなり、若い方への継承者対策として四十名の氏子会の皆様で保存会が結成されました。これを機に市の文化協会に団体入会をお願い申し上げます。市の会員になれば、県の団体会員となります。これからは御田歌以外でもお祝いの唄として出演願うこともあります。八月三日に楼門ピアノコンサートにも十五名ほど出演されます。市民の皆様のご声援をお願い申し上げます。

旧阿蘇町山田小野田の志賀与市様が里帰りを機に「能面」を製作するの個人入会されました。心から歓迎申し上げます。さて、四年の内には文化ホールも落成するものとして期待しておりますが、生涯学習での受講が三年間で卒業ということになっております。卒業後は自主学習（一般民間講座）又は民謡協会等の様に支部制度の教室に入会も頂き引き続き勉強される事をぜひお願い申し上げます。文化ホール落成記念大文化祭には、高レベルの作品展時出品並びにステージでの出演が出来ますようお願い申し上げます。

## 阿蘇市文化協会

副会長 坂 梨 文 男

文化協会も合併発足して二年となり、会員各位の協力で基礎作りが出来つつあります。私達は郷土の文化遺産を守りこれを後世に伝えていか

なければなりません。阿蘇神社を中心としたお祭り御田歌が国造神社、黒川地区のホーヘンヤ、今町神社の御田歌等が唄い継がれています。虎舞では竹原地区、成川、折戸、狩尾、三区等それぞれの地区で伝承しておられます。昨年は山田小学校の児童の皆さんが小倉地区の虎舞を数十年前の振りに復活され、運動会で披露され、校区の皆さんが大変喜んでいました。波野の神楽も小学生の舞手が中学校でも続けられるそうです。また、赤仁田の盆踊り唄もぜひ後世に伝えたいものです。

昭和の初期から阿蘇登山には産交バスが坊中駅から山頂までガイドさんがこの頃は、「世界に第一とよばれる火山大阿蘇の火口丘への登山口、坊中駅と申します。」の名調子で始まり、名所旧跡を解説し、其の中で阿蘇の恋唄が唄われていました。この唄を阿蘇市の地域作りにもしたいものと思っております。各地では、植木町の田原坂、山鹿市の鹿北の茶山唄、熊本お城祭りではおてもやん、高千穂では、刈干切り唄、天草のハイヤ節等があります。文化会館の建設も間近で文化協会と行政とで実現したいと思っております。昨今は小中高齢化となり文化協会の会員も少くなり、若い方々の参加を是非お願いしたいのです。高齢化の中で認知症等の防止の為に生涯学習に参入して参加され、また文化活動と多くの人の交流が日常生活をより豊かに、より楽しく過ごす事が出来る事と思っております。お互いに文化の交流に務め、心豊かに過ごしましょう。





# 「華道」

井田 良作 (仙溪)

いけばなの歴史について述べてみよう。

いけばなは、推古天皇の摂政として誰もが知る聖徳太子の命により遣唐(随)使として大陸文化を我が国へ伝えた小野妹子によって、仏前に花を供える(供花：クゲ)から始まるとされている。然し、花と人とのかかわりは、太古の昔からあり、世界各地でその事が実証されている。仏教寺院では、仏前に花を供えるには常緑のものが最高とされ、松や榊などを主に用いている。今でも寺では真に松を立て菊花をあしらうのが一般に常道とされている。

仏像に花を供えるという宗教的な飾り花が定着していく一方、平安貴族の間では、花を瓶に挿して觀賞することが始まり、この事は建築とのかかわりも深く、寝殿作りから住宅建築が書院作りになり、床の間が作られ、絵や花を飾るようになる。座敷き飾りの中で最も格式が高いとされた三具足床飾りに、立て花を立てるようになる。時は室町時代に入り、京都、頂法寺六角堂の僧侶、池坊専慶は、これまでの仏事の花師としてきた阿弥宗(能阿弥、世阿弥など)と異なり、新しい手法で花を取り合わせ、さまざまな花を幾種類も使って挿した花が、人々の賞讃するところとなり、以後代々立て花の名手が出ることになる。中でも、池坊専応は「専応口伝」という花伝書を著し、いけばなの形態を多様なものにする、即ち口伝に云う「瓶に花を挿すこと、古よりあると聞き待たれど、それは美しき花をのみ賞して草木の風興をもわきまへず、只さしいけたるばかりなり。この一流は野山水辺自らなる姿を居上にあらわし、花葉をかざりよろしき面かげをもととし、さし始めより以来世にひろまりて云々」とある。即ち、いのちある草木の自然の美しさを讃え、そこ

に感銘を受け心して花を挿すべしとされている。

その後、徳川幕府の時代に建築様式も数寄屋造りが広まり、床の間にいける小さな花が好まれ、投入花から生花へと進化してゆく。一八九七年(明治十二年)池坊専正は京都府立女学校の花道教授を委嘱され、この頃、各女学校で女性の教養文化として取り入れられ、女性の間に面的に広まる。(現在では殆どいけばなと云えば女性がするものとの認識が強いが、それ以前は主に男の仕事であった)江戸後期には、各々の名手によっていろいろな流派が生まれ(その数、千を越すと云われる)現在熊本でも、池坊、小原、草月の三流で「いけばな連盟」を作り、他方「熊本華道芸術協会」が三十六流で構成されている。一方、フラワードザインも盛んであるが、文化庁では日本古来の伝統文化の復活に力を入れ、「伝統文化こども教室」を奨励して、その発展を後押ししている現状である。以上かいつまんで記述してみた。

# 詩吟

「吟詠」又は「吟道」とも言う

酒井 國夫



吟道とは、第一項 吟は是れ心之創作也、明朗開拓す性中の天。第二項 吟は是れ心之感也、情操を陶冶して心田に培う。第三項 吟は是れ心之交流也、吟心融合して聖賢に通ず。第四項 吟は是れ心之音律成、清妙相和す胸底の絃。第五項 吟は是れ体之鍛練也、朝(アシタ)に吟じ暮(ユウベ)に詠して寿(ヨソイ)自ら延びん。以上の五項目を私私座右の銘として心身の鍛練をし、人格の修養をしようとする心にかけているものであります。

私共、香雲堂吟詠会阿蘇中央本部は、昭和三十四年、先達に因って罰

設され、延々として今日に至るまで四十七年の歳月を経て現在小学生から九十一歳の高齢者まで老若男女を問わず二百四十五名という大所帯であります。勿論この中に指導者二十名も含まれております。これは日常生活に於いて、如何に人間にマッチしているかと言うことではないでしょうか。それと申しますのも、現在の詩吟は今様和歌、俳句、民謡、軍歌、流行歌、又その土地に関する歌等、音楽性に工夫が加えられ、器楽演奏との調和を図るなど現代人にとって魅力的な伝統芸能として認められていくからでしょう。そして詩吟は、膝下丹田より声を出すと云われております。ここに力を込め声を出すと云うことにより、健康を得、勇気を生じると言われております。年中行事としては二月の初詩吟会、四月は小国との友好詩吟大会、五月に初代山櫻杯選抜吟詠大会、八月は温習会「審査会」、十二月には義士まつりがあります。

尚、又来る平成二十一年は阿蘇中央本部創立五十周年記念全国吟詠大会も控えており、この大会は全国各地より五百名から六百名程度の参加が予想されます。地元会員合わせますと約七百名から八百名となります。そこで、文化ホールが出来ないと会場に苦慮するものであります。二十一年五月までの文化ホールの完成を願って嬉まないものであります。最後に文化協会長始め、役員の方々から感謝申し上げ、今後の御活躍と協会の発展をこ祈念いたします。

# 「茶道を学んで」

岩下 クミ子



当時、内容は全くわかりませんでした。が、テレビなどで、背筋をピンと伸ばし、正座して、心をこめて一服の抹茶をたて、静かに味わう茶人の姿に感動してたのと、忙しく勤めていた私は、「静寂」とか、「伝統文化」とか学んでみたいと思っていたのかも知れません。

先生は、お若く笑顔が素敵で、着物姿がよくお似合いの家入恵子先生でした。初めは、老若男女入り交じって行儀作法も自己流で。茶道具の名前もよくわからない方々が多かったです。思います。が、先生の親切丁寧なご指導と、皆さんを和ませるお話ぶりで次第に緊張もとけ、だんだんお稽古が楽しくなり、今日まで続けることができました。

表茶道は、自然の流れで所作が行われます。初めは簡単な手順を頭に入れるのがやっとでしたが、だんだん流れもよくなり、「美しさ」が求められて来てご指導にも熱が入ってまいり、練習時間はアツと言う間に過ぎてゆきます。此の頃、少し茶道の奥深さに気づき始めています。

「お茶をたてることの意味」とか、「楽しむことの意義」「寂」などなど、まだまだ解りませんが、これからも続けていくつもりです。

又、先生のご自宅の教室の方々との交流も大変勉強になります。つつじ祭りでの神社の野点や、正月の初釜、文化祭でのお茶室など、先輩方の見事なお点前を学ぶよい機会です。年一回は、小学生との交流会も行っています。

おかげで他町や旅行先でのお茶席などでも困ることはなくなりましたし、お茶を点てたり、それを頂いて清々しい気分がでられることを「有難い」と思っています。

欲を言うなら、沢山の若人(若い人)にも入ってもらいたいし、ちゃんとした茶室があったらいいなと思っています。

もし、文化会館が作られる際は何か実現して頂けたらと念願しています。



展示副委員長

中島 虎雄

阿蘇市文化協会が発足して二年目を迎え、いよいよ本年度は昨年度の手の届かない事、又は悪い点など皆さん方のご意見を聞き、少しでも文化都市としての誇りを作りあげていきたいと思っています。私も園芸講座の責任者として、月一回実地をいたし、本年は会員が多くなり教室にはいりきれない程になりました。一年の最後の月の十二月には松竹梅造りをして会員の皆さんも喜んでおります。

本年も文化協会の加入申込が年々多くなりました。平成十八年度の文化祭が昨年同様阿蘇市体育館で実施され立派に成功いたしました。市民の皆様から本年は良かったと思われよう。「ガンバリ」たいと思っております。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

「日舞」

伊藤 英子



踊りとは、身振り手振りで舞うだけでなく、今何を表現して心を伝えているのか、これが踊りだと思えます。

昨年は、町村合併後初めての文化祭が阿蘇市の体育館で行われました。ステージでは、各部門の発表がありました。参加された方々とお客様の心が一つになり、盛会の内に終わりました。阿蘇市の文協の中で日舞の教室が、生涯学習を含め二十近くあります。今年は新たに出演なさる方が多くなり、ますます呼びかけをしてまいりたいと思います。

「フラダンス」

(チエリーフレッシュ阿蘇)

高宮 キヌ子

私達フラダンスは、初級、中級、上級と三段階に別れています。色々な課題を終えて、これまでに慣れて来ました。ハワイ語の唄に合わせて踊る仕草は、手話だそうなんです。動きに色々な意味があり、波の振り、風の手話、花の手話と、たくさんのお話で振り付けがされています。

始めた頃は、足の踏み込みもままならない有様でしたが、今では楽しく和気あいあいでやっています。熊本市市民会館の発表会をはじめ、阿蘇市の文化祭と色々なイベントにも参加しております。年齢も八十歳近い人から三十、四十歳代の方まで幅広く、覚えにくい所は若い人に親切に教えてもらっています。

私達高齢者は、足腰の鍛練とリハビリと思っています。市民の皆様と一緒にやりませんか。体がやわらかくなり、しなやかな体の動きが何とも優雅な雰囲気をもも出していきなす。私達は、今後も楽しんでいきたいと思います。

「ダンス雑感」

小田 晴二

近年体力の衰えを痛切に感じている時に教育委員会の生涯学習講座(社交ダンス)を知り、汗を流す事を目的に昨年度より参加させて頂いている。永年のブランクのためステップを忘れていたり、体の柔軟性が失われていたりで散々な状況だが、私自身はやるからには少しでも綺麗に踊れるよう、また受講者の人達と共に

技術力のアップも行いたいと思っております。

てきた。今では音楽とダンスができてきた。フロアがあり、指導の先生や受講者と巡り合えたことに感謝を生きている。青春時代のように行かないが結果として少しでも老化防止と体力の現状維持ができれば良いと思っている。



私が社交ダンスと出会ったのは三十八年前になる。中学、高校と剣道部だった私が大学の社交舞踏研究部に入学したのが始まりだった。部は体育会系に属しており、学内練習、学生競技会、ダンス教室でのレッスンに明け暮れた感がある。当時はまだ社交ダンスは風俗的な見方をされてきたため部員全員が「男女二人の身体で表現する芸術でありスポーツ」として社交ダンスを捉え、また女性部員に対しては異性と言うより性を超えた一人の人間として接し、恋愛感情が見受けられれば即刻退部が先輩から引き継いだルールだった。ပါတナーを決めるにも身長、技量、学年を考慮して役員会で決定し、個人的な感情は御法度だった。同期の中には卒業後にプロダンサーとして成功活躍している者もいる。私にはプロダンサーへの情熱、技術力、それに決断力が欠如していたのでその道には進まなかった。

社交ダンスに最も似通っているのがフィギュアスケートだろうと思う。フィギュアスケートは複数の審査員による技術点・芸術点で評価されるが、社交ダンスの評価要素は男女それぞれに規定された足の動き(ステップ)・姿勢、顔の表情、ダンス種目に合った俊敏やソフトラな体の動作

フロアの使い方、音楽(テンポ)に合わせて踊っているか等、これらを総合したものを「ダンス技術」として評価(審査員の主観的要素も含まれる)される。各ステップの組合せには柔軟性があり、踊っていると男子が瞬時に判断してပါတナー(指示(リード)する必要がある。インターネットで調べてみると近未来にオリンピック種目へ取り入れようとの動きもある。社交ダンスは阿蘇市文化協会に属しているが、熊本県では熊本県体育協会に属している。また県内各市(熊本市、水俣市、八代市)においても体育協会に属しており、競技会等も開催されているようである。いずれにせよ阿蘇市においても発表会や競技会等が開催できるよう年代を問わず社交ダンス人口が益々増えるといいのだが。

社交ダンスを行うには会場の床材質が問題となる。阿蘇市内においても保育園や小学校が統廃合となり未利用となつている旧園舎・旧校舎がある。市の財政事情が逼迫していることは十分承知しているが公共施設として改修する際には少々コスト高とも分らないが社交ダンスが行える多目的床にする事により市民の練習会場が確保し易くなる。また、市外・県外の大学社交ダンス部、巷の同好会、ダンスサークル等の合宿練習会場としての誘致も出来て、市の活性化にも繋がるのではないだろうか。

明治時代の貴族社会では国際人の嗜みとして頻りに舞踏会が行われていた事を歴史で学んだ。最近では芸能人による社交ダンス競技がテレビ放映されており、風俗的な見方も解消されているように思う。これからの青少年は今以上に国際社会へ羽ばたいて行かなければならず、幼少の頃からダンスの知識を身につけておいても損はないと思う。学内授業、地域社会での親子同伴等による講習会でダンスの知識・技術を習得する方法もあるように思うが飛躍し過ぎだろうか。



### 「パッチワーク教室」

神保京子

教室は、手芸好きな仲間三十五名の集まりです。すばらしい先生に恵まれ、丁寧なご指導に生徒一同大変うれしく思っています。

教室は一回二時間で年数別に三段階に別れています。各人、一針一針に心を込め、思い思いの作品を作っており、二時間がすぐに過ぎてしまいます。

パッチワークは三角、四角、六角形と様々なパターンの小さな布をはぎあわせる作業です。サイズは変わっても、縫い方は同じです。あとは一人一人のアイデアと配色が大事です。巡り会った布に感謝しつつ、楽しみながら作った作品は暖かさで一杯です。

針をにぎっている間は心落ち着きな時間です。日々の忙しさを忘れ、いつの間にか元氣を取り戻している自分があります。

今年は、多くの方がパッチワーク教室に申込み、「定員オーバー」で参加できない人が多くいる。「と聞き、来年はどうなるんだろうかと心配しています。」

### 「ステンドグラス」

井了子

私がステンドグラスを習うようになって十五年近く経ちますが、今でも初めてステンドグラスに出会った時の印象は鮮明に覚えています。それは内教にあったブテック（今は閉店）の試着室に姿見として置いてあったビーコックの鏡です。じつと眺めていると、冷たいと思っていたガラスが次第に心をなごませ、あたたかい光に魅了されていく自分を発見したのでした。

私も、私の作品が作れるようになりたいと思い、このステンドグラスの世界に足を踏み入れたような気がします。今ではオリジナリティの高いデザインや技法への探究心は勿論大切だと考えています。常に忘れないうように心がけています。美しい作品づくり、単純で漠然とした表現ですがこれが基本だと考えています。

建築空間に設置されているであろうステンドグラス作品は、平面・立台に関わらず、その空間に違和感なくとけ込み、互いにとけ込みあつてこそ、その作品の存在の意味があるわけで、そこにも美しさを両立させることは、これからの永遠の課題で努力を注いでいくつもりです。こちらからの押し付けではなく、より多くの皆様自身の美意識に少しでも訴えかける作品づくりができれば幸いです。



### 大正琴

代表 中島アキヨ

大正琴は、大正元年、琴、三味線尺八と四番目の日本の楽器として名古屋の森田五郎の発明によって出来たそうです。

その音色に魅せられて、私達は、昭和六十三年に二十名位で大正琴「ゆうすげ会」として発足、やがて二十年になろうとして居ります。

左の指で楽譜をおさえ、右の手でピックをひく事が最初は難しくてもやめようかと思つたこともありましたが、少しずつ慣れて来まして、やつと先生の指導も解るようになってきました。先生は、平成元年頃より大分市からは永和子先生に指導し

ていただいて居ります。二十年にもなりますと、やめられる方、亡くなられた方色々ありまして、現在十六名で月に二回練習して居ります。市に合併して、新しい方が昨年一名、今年旧阿蘇町より一名、旧波野村より一名で練習して居ります。新しく入られた方々の為に、一時間は簡単な童謡等、一時間は少し難しい演歌等、色々和気あいあいとして練習して居ります。私達も平均年齢が八十歳を越えていますので、なかなか上達も出来ませんが、何時迄続けることができます。少しでも解らないと思つて居ります。少しでも若い方に入つて頂いて、末永く続く事を願つて居ります。

### 「染色」

今村知津子

私が、鈴田先生の指導を受け染色を始めて三年目になります。

昨年は、合併して第一回目の阿蘇市文化祭でしたが、私達の染色も若い方達の発想ですばらしい展示が出来ました。作品は、一人一人が自分で考えたデザインで染めます。染め上がった時のみんなの驚きと楽しさで、月に一回の教室も和気藹々です。染色にもいろんな技法があり、まだ今から学ぶ夢がいっぱいあります。生涯学習で出会った人達と、今後もいろんな染色の作品に挑戦し、楽しい作品づくりの教室を続けていきたいと思つています。今年も文化祭の作品づくりで頑張ります。



### 《事務局だより》

会計 佐藤信子

阿蘇市文化協会設立二年目を迎えるにあたり、四月二十四日総会を開催されました。平成十七年度の事業報告並びに決算報告等ご承認いただきました。又、十八年度の事業計画並びに、予算計画にも審議承認されました。新年度に向け役員一体となり、会の運営を進め、阿蘇市の文化向上に役立つことに努力してまいります。

さて、阿蘇市文化協会の加入のお誘いですが、市広報「あそ」五月号にも掲載してありますが、募集中であります。市民の多くの方の加入をお待ちしております。

- 一、申込期限 七月末日
- 一、年会費 一、〇〇〇円
- 一、連絡先 事務局長 下村勝志  
電話二二一〇二二三  
会 長 岩水 浩  
電話二二一〇一一五

### 編集後記



阿蘇市文化協会を設立して二年目を迎え、私達広報部も二回目の「噴煙」を発行することになりました。会員の皆様のご協力を頂き、広報部一同実りあるものと作成いたしました。

来る秋の十月二十八日・二十九日、阿蘇市文化祭に向けてプログラムを作成して、阿蘇市文化祭が盛大に出来ますよう広報部一同頑張ります。会員の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

広報部一同